

# News Letter

vol.17  
2023 autumn

男女共同参画推進課・女性活躍総合研究所

ミモザの花

文部科学省科学技術人材育成費補助事業 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)



## 男女共同参画推進課CONTENTS

- ◆武庫川学院は「くるみん認定」を受けました。
- ◆一般事業主行動計画を策定しました。
- ◆学校教育館に新たな授乳室が設置されます。
- ◇男女共同参画推進委員会が設置されました。
- ◆子育て交流会を開催しました。
- ◆研究支援員制度利用者の声を紹介します。

## 女性活躍総合研究所CONTENTS

- ◆研究所新体制紹介
- ◆MUKOJO未来教育プログラムSOAR
- ◆国際女性ビジネス会議に学生3名参加
- ◆各部門活動報告
- ◆令和5年度女性研究者賞採択結果

令和5年度  
文部科学省 科学技術  
人材育成費補助事業  
「ダイバーシティ研究環境実現  
イニシアティブ(女性リーダー  
育成型)」に選定!



## MESSAGE



附属中学校・高等学校  
世良田 重人 校長

現在、附属中・高はコース改編をはじめとした学校改革を進めています。コンセプトは「中・高から大学、そして社会へ。一生を見通したキャリア教育で、自らデザインした未来へはばたく」です。このコンセプトのもと、「SOARグローバルサイエンスコース」と「SOAR探究コース」の2コースを設け、来年度の中学1年生、高校1年生から募集します。コース名に共通している「SOAR」は、もちろん「MUKOJO未来プログラムSOAR」からお借りしたものです。附属中・高は、武庫川学院の一員として「一生を描ききる女性力」の育成に取り組むという思いを込めて命名しました。

また、ご承知の通り、今年度から西宮北口キャンパスで、リカレント教育「MUKO noa+」がスタートしています。新学科の開設準備も進んでいます。

6月下旬、世界経済フォーラムは各国のジェンダーギャップ指数を発表しました。日本は、昨年から九つ順位を落とし世界第125位です。男女共同参画という言葉が盛んに言われている中にもかかわらず、日本は相対的に男女間格差が広がっている状況です。

このような状況だからこそ、私たちは、社会に貢献できる自立した女性の育成に向けた学院あげでの取り組みを、自信を持って進めていきたいと思っております。

## VOICE



VOICEとは・・・働き方・子育て・介護等について、教職員の方の日頃感じていることや体験談をご紹介します。

5月にアメリカ分校(MUSC)に取材に行った。自宅を10日も空けるのは初めてのこと。料理一つしない夫と子どもがこの日々をどう過ごしたのか。きっと私のありがたみを思い知っただろう、と半ば期待して帰宅した。ところが10日ぶりの自宅はちり一つなく、「どうだ」とばかりに自信に満ちた家族の顔があった。食事は買ってきた惣菜でまかなったようだが、洗濯物やゴミの滞りもなく、「父子の会話が増えた」という副産物もあったという。

以来、私の主婦としての自負は揺らいでいる。というのも、私にとって長年、家庭は「もう一つの職場」だった。初職の新聞記者は泊まりも呼び出しもある不規則な勤務。子育てを機にフリーライターに転じたのはワークライフバランスならぬ「ワーク(仕事)・ワーク(家事)バランス」に悩んだ末だ。仕事が立て込むと預かり保育やシッター、ママ友まで頼ったが、いまや子どもも大学生。家事を抱え込み、家事格差を固定していたのは私だったかもしれない。

ちなみに広報室では室長不在の10日間、業務は着々と遂行され、ほぼ定時退勤だったそう。いつもは残業多めの広報室だが、これも私の悪弊のゆえだったか。「出張中、平和でしたよ」という報告が、「いない方が平和」に聞こえたのはひがみかしら?



広報室 米田浩子 室長



くるみんマークは赤ちゃんが大事に含まれる「おくるみ」と「職場ぐるみ・会社ぐるみ」を掛け合わせ、仕事と子育ての両立のサポートを表現しています。認定により、本学で作成する印刷物等にくるみんマークが使用できるようになります。

学校法人武庫川学院は、2013年に男女共同参画推進宣言を公表し、長年にわたり教職員の仕事と子育ての両立を積極的に支援し、さまざまなサポート体制の充実、制度の見直し、環境整備を推進してきましたが、このほど初の「くるみん」認定を受けました。

今後も、子育て支援やワーク・ライフ・バランスの充実に関する取り組みを進め、誰もが安心して学び、研究し、働くことのできる学院を目指してまいります。

### 「くるみん認定」とは

次世代育成支援対策推進法に基づき策定した「一般事業主行動計画」に定めた目標を達成し、一定の基準を満たした場合に、申請を行うことによって「子育てサポート企業」として、厚生労働大臣より認定を受けることができます。

本学は、令和3年4月1日～令和5年3月31日の期間で策定した一般事業主行動計画の目標達成、ならびに必要な基準を満たしたことが認められ、今回認定の運びとなりました。

次世代育成支援対策推進法(次世代法)及び女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)に基づき、令和5年度より5年間の「一般事業主行動計画」を策定しました。

武庫川学院は、全教職員が仕事と生活を両立させ、次世代を担う子ども達が健やかに育まれる環境を整備し、職業生活における女性の個性と能力が十分に発揮できる環境の整備に取り組みます。 ※10月にワーク・ライフ・バランスにかかるニーズ調査を実施予定。

### 「学校法人武庫川学院 一般事業主行動計画」

1. 計画期間 令和5年4月1日～令和10年3月31日までの5年間
2. 課題 (1)学院全体の女性管理職比率は34.3%であり、政府が推進する女性管理職の割合30%を達成している。しかし、本学は女子学園であり、ジェンダー平等の実現に貢献する教育機関として、さらに部門間の偏りの解消に努め、女性が活躍しやすい環境づくりを推進する。  
(2)本学は女性教職員が6割を占める職場として、教職員全員が仕事と育児・介護等を両立できるよう関連制度の充実を図り、必要な環境整備を行う。
3. 目標と取組内容 目標1:大学・短大教員の女性管理職比率38%を目標とする。  
目標2:年次有給休暇取得日数を年間平均10日以上となるよう推進する。  
目標3:仕事と育児・介護等が両立できる多様な働き方を実現する。

施設部の協力の下、11月に学校教育館1階に設置型授乳室mamaro(ママロ)を設置します。mamaroは、内鍵付きの完全個室で室内設備も充実!利用者のプライバシーを守ります。授乳だけでなくオムツ替えや離乳食にもご活用いただけます。他には、搾乳器などに利用できるコンセント、使用方法や育児のお役立ち情報などのコンテンツが閲覧できるサイネージが付いており、利用者が赤ちゃんと安心して快適に過ごせる空間です。(本館4階多目的室も引き続き授乳室としてご利用いただけます。)

#### 設置型授乳室mamaro



#### 本館4階多目的室 (授乳室としてご利用いただけます。)





今年4月よりこれまでの男女共同参画推進室が人事部に統合され、人事部男女共同参画推進課として新たにスタートいたしました。推進室では、教職員の働き方改革や福利厚生に関する業務を行ってまいりましたが、人事部に位置づけられたことにより、より一層実行力のある取組が可能となりました。これにともない、下記にありますように、企画運営を担う「男女共同参画推進委員会」が設置されました。委員一同、これまでの業務継承だけでなく、より充実した教職協働による働き方改革への取組を進めてまいりたいと考えております。よろしくお願い申し上げます。

(男女共同参画推進委員会 委員長 河合優年)

### 【男女共同参画推進委員会】

|     |       |                |
|-----|-------|----------------|
| 委員長 | 河合優年  | (副学長・教育研究所)    |
| 専門員 | 中村明美  | (教育学科)         |
|     | 中尾賀要子 | (教育研究所)        |
|     | 金谷志子  | (看護学科)         |
|     | 高井弘弥  | (教育学科) ※9月末まで  |
| 委員  | 大野勝利  | (監査室長)         |
|     | 私市佐代美 | (人事部長)         |
|     | 福崎わかな | (男女共同参画推進課長)   |
|     | 木原俊彦  | (男女共同参画推進課専門員) |



今年度初のランチ・タイム・ミーティングは、お昼休みの1時間を利用し、女性事務職員を対象とした「子育て交流会」を開催しました。「より働きやすい職場環境を作るために」をテーマに、男女共同参画推進委員/専門員の中村明美先生(教育)のファシリテートのもと、仕事と子育てをどのように両立しているのかという話題を中心に5名の事務職員が交流を深めました。話題は、「晩ごはんはどうしているの?」「子どもが病気時の対応」「学内外の交流の重要性」「きょうだい同士の関係」「地域の子育て支援の使い方」などでした。また、子どもが小学生になると時短勤務や看護休暇が終了することの不安や、継続的に同制度を利用できればより安心できる。さらに、子どもが体調を崩した時には、在宅勤務が柔軟に利用できればより働きやすいなどといった生の声を聞かせていただきました。男女共同参画推進課としても、ワーク・ライフ・バランスを考えていく有意義な会となりました。



### 【参加者の感想】

- ◆子育ての先輩である職員の方とお話して、ママ友や地域との交流を持ち協力する大切さを実感した。
- ◆子育てを通じて、職員同士の横のつながりができて良かった。
- ◆今後も教職員が交流できる会があれば、是非参加したい。

男女共同参画推進課では、今後もさまざまなテーマでランチ・タイム・ミーティングを企画して参ります。(10月には介護をテーマに実施予定。)教職員の皆様のご参加をお待ちしています!

子育て・介護・働き方の悩みや不安を、ひとりで抱え込んでいませんか?  
学内相談員(男女共同参画推進委員/専門員4名)または学外相談員(子育て相談員2名、介護相談員2名、働き方相談員1名)が相談をお受けします。

### 【個別相談・無料】

オンライン(Zoom)でのご相談も可能です。また、ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ【牽引型】の代表校である奈良女子大学の相談窓口(産婦人科相談)を無料で利用できます。男女共同参画推進課までお問い合わせください。

【相談窓口専用メールアドレス】gsodan@mukogawa-u.ac.jp  
【電話】0798-45-3542(内線:2900)

教職員だけでなく  
大学院生・学生の皆さんも  
ご利用いただけます。  
お気軽にご相談ください。  
(相談内容は秘密厳守です。)

相談員の紹介は  
こちらから



## ラビークラブ

本学では、学院内に一時預かり保育ルーム「ラビークラブ」を開設しています。利用年齢は、満1歳～12歳(小学6年生)まで、定員は、1日5名です。



利用申込みは利用日2日前(土日祝を除く)の15時まででとじていますが、初めてのご利用の場合は、事前の登録手続きが必要です。詳細は、ホームページをご覧ください。



## ラビークラブ見学会を実施しました。

昨年度に引き続き、今年度も教職員向けにラビークラブ見学会を実施しました(6月22日)。

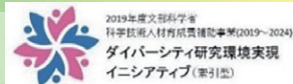
当日は、男女共同参画推進課の担当スタッフが施設の案内、利用申し込みに関する説明を行い、参加者からの質問にもお答えしました。

施設見学は随時受け付けています。お気軽にご相談ください。



## ベビーシッター利用支援

教職員(私学共済加入者)の皆様の子育てと仕事の両立を支援するため、「ベビーシッター割引券」の助成を受けています。ご希望の方に「ベビーシッター派遣事業割引券」を交付しており、全国保育サービス協会が認定した業者で利用できます。対象者、使用条件等の詳細は、ホームページをご覧ください。



研究支援員制度は、出産・育児・介護・看護に関わる研究者や女性管理職の研究活動を支援するため、研究支援員を派遣する制度です。2013年度から運用をスタートし、募集は年2回(12月に次年度募集、7月に後期募集)実施しています。

今年度前期で利用を終了された方が3名、後期募集に2名の応募があり、審議の結果全員が採用され、後期からは9名にご利用いただきます。利用者の内訳は以下のとおりです。

【学 科 別】 日文 1、英文 1、教育 1、健康 1、環境 1、食物 2、情報 1、看護 1

【申請理由別】 育児 4、介護 3、女性管理職 2

【性 別】 女性 9、男性 0

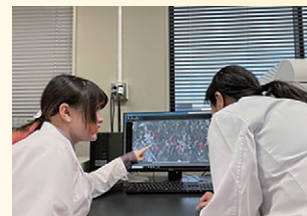
※今年度の後期募集は終了しましたが、急なご事情で研究支援制度を希望される場合は、男女共同参画推進課にご相談ください。

## ◆ 利用者(教員)の声

澤渡千枝先生(生活環境学科長)

昨年度から生活環境学科長を拝命し、職務の多忙さで研究時間を確保しにくい状況です。支援員制度には女性管理職枠があり、学科長以上であれば利用可能であることと、本年度は修士課程に支援員希望の学生さんが進学したこともあり、申請しました。

支援員さんには、研究環境整備を兼ねて資料や試料の整理を始めにお願いし、現在は日常作業として微生物試料の継代培養と観察をお願いしながら、院生としての研究にもプラスとなるスキルを磨いてもらっています。おかげさまで、数年前から中断していた研究も少しずつ進み始めました。Win-Win の関係が成果に繋がる予感アリです。



## ◆ 研究支援員の声

老家初果さん(生活環境学研究科 生活環境学専攻 修士課程1年 澤渡研究室)



学部の卒業研究からの指導教員である澤渡千枝教授のもとで研究支援員をさせていただいております。学部生の頃は生活費等のために学外でアルバイトをしながら研究に取り組んでいましたが、この時間をもっと研究に使えたらと常に思っていました。

大学院進学にあたり更に研究時間を確保したいと考えている時に、澤渡教授よりこの制度をご紹介頂きました。研究支援員であることの魅力は、資料整理等を通して自分の研究分野に直結する見識を学び得られる点、利用者(教員)も含め双方の研究成果の発展に貢献できる点であると思います。まさに「一石二鳥」です。今後も先生と二人三脚で研究に没頭できることに感謝し、努力を続けていく所存です。



本研究所は、令和5年度より新体制でスタートしています。「女性活躍推進部門」と「女性生涯キャリア支援部門」を統合し「生涯活躍推進部門」とし、さらに新しく「ジェンダー平等推進部門」が誕生しました。「グローバル化推進部門」、「ダイバーシティ化推進部門」、「次世代女性人材育成部門」は継続し、5つの部門となります。引き続き、ジェンダーギャップを越えた女性の育成と支援、また広報活動を進めてまいります。



高橋亨子 所長  
(食物栄養科学部)

## 生涯活躍推進部門

NEW!!



部門リーダー  
宇野朋子  
(建築学科)



竹本由美子  
(生活環境学科)



吉田都  
(薬学科)



高橋千枝子  
(経営学科)



吉井美奈子  
(教育学科)



神米美穂  
(経営学科)

- 1.学生から社会人まで、女性の生涯にわたる活躍に関する調査研究・支援  
異分野交流による横断型研究の発掘と支援に関する調査研究  
若手研究者・研究復帰者の支援に関する調査研究  
研究者ロールモデルに関する調査研究  
研究スキルアップセミナー
- 2.女性のキャリアに関する調査研究、キャリア開発支援  
武庫川女子大学OGを中心としたキャリア形成に関する調査研究  
近畿圏企業を対象とした女性従業員のキャリア形成に関する調査研究  
女性のキャリアに関する受託研究  
活躍する卒業生のロールモデルの紹介・キャリアセミナー  
女性リーダー(経営者・管理職等)育成のためのキャリアセミナー  
キャリア開発に必要なビジネススキル講座
- 3.外部機関と連携した女性のキャリア開発プログラム  
女性の起業塾プログラム  
女性リーダー育成プログラム



## グローバル化推進部門



部門リーダー  
吉田 徹  
(食創科学科)



A.L.エイデン  
(共通教育部)



西尾亜希子  
(共通教育部)



吉川紀子  
(薬学科)

本学教職員による研究教育活動のグローバル化を推進するための企画研究

- 1.実践的な英語口語能力を高める教材の研究開発
- 2.英語による発表能力を高める啓発セミナーの企画開催  
ネイティブ講師による講演発表やオンデマンド英語チューターレッスンによるフィードバックを行います。
- 3.国内外における英語発表の試験的な企画提供  
英語による国際発表機会の場を設定します。さらに可能であれば、国際間の共同研究立ち上げへの支援を行います。

## ダイバーシティ化推進部門



部門リーダー  
福尾 恵介  
(食物栄養学科)



永田隆子  
(オープンカレッジ)



清水佐知子  
(看護学科)

2019年度文部科学省「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)2019-2024」に奈良女子大学を代表校として採択され、ダイバーシティ化推進部門が中心となり他部門と協同で取り組んでいます。研究スタートアップ支援講座(統計学セミナーや英語プレゼンテーションセミナー)や研究支援員制度に加え、奈良女子大学が中心に取り組む「訪問型」病児・病後児保育システムのモデル構築などにより、女性研究者の環境整備の充実に取り組めます。さらに、本学独自の事業として、「異分野交流カフェ」では新しい発想が生まれる出会いの場を提供しています。



## 次世代女性人材育成部門



部門リーダー  
長谷川裕紀  
(共通教育部)



和泉志穂  
(社会情報学科)



山下紗久佳  
(経営学科)

科学技術振興機構(JST)「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」の採択取組である「ひょうご理系女子未来塾(現MUKOJOミライ☆ラボ)」の活動を中心に、次世代を担う女性人材を育成するための取り組みを行っています。小学生を対象としたプログラムでは、サイエンスへの関心を高めるためのワークショップを開催しています。また、中学生を対象としたプログラムでは出前授業を開催し、実施校と連携したキャリア教育を行っています。高校生を対象としたプログラムでは企業と連携し、新しいモノやサービスを創造する文理融合型のプログラムを実施しています。生徒の皆さんが文理を問わず、将来の夢を描き、そのキャリアを実現するための産学連携キャリア教育プログラムを開発します。

## ジェンダー平等推進部門

NEW!!



部門リーダー  
中尾賀子  
(教育研究所)



中村明美  
(教育学科)



金谷志子  
(看護学科)

- 1.ジェンダー公平と平等を推進する情報発信と普及啓発
- 2.本学全体のエンパワーメント推進となる方策や支援の提案
- 3.本部門における活動内容の記録蓄積と資料共有

本部門は、本学におけるジェンダー公平と平等推進の視点から、一人ひとりのエンパワーメントとなる活動に取り組むことを行動指針としています。活動開始の今年度は、「本学における多様性とは何か」「本学における多様性を実現するにはどうしたらよいか」という2つのテーマを軸に、日本だけでなく国際社会の動きも視野に入れながら、本学における多様性のあり方を広く探究しているところです。本学ならではの多様性を実現し、今以上に強靱な高等教育機関として、社会を牽引する有為な女性を輩出するためには、みなさま一人ひとりの参画が不可欠です。ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

● 全新生対象SOAR導入講義 4月6日(木)・7日(金)

昨年スタートしたSOAR導入講義。全新生を対象に、公江記念講堂において行いました。女性を取り巻く諸課題について理解を促す本学独自の基盤教育プログラムです。

《講義内容》①SOAR概要説明(高橋享子所長)

- ②「ジェンダーとセクシュアリティ」(中村明美准教授)
- ③「女性の仕事環境とキャリアデザイン」(高橋千枝子教授)
- ④「女性のライフプランと法律」(山本晶子教授)

本講義を2年生以上の学生や教職員も視聴できるよう、後日動画を配信しました。



● 共通教育科目「SOAR 人生100年をきり拓く力」履修枠が100名→150名に

今年度前期は150名の定員に、700人を超える申込みがありました。

|         | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 |
|---------|----|----|----|----|
| 受講生数(人) | 16 | 70 | 34 | 31 |



● キャリアセンター主催「わたしプロデュース!」にSOAR講座を提供

9月20日(水) 16:30-18:00

「女性のからだを知る～身体の変化を慈しみ、幸せな人生を過ごすために～」  
産婦人科医 高島桂子先生(たかばたけウィメンズクリニック理事長)

● 第1回武庫女ビジネス・コンテストにSOAR賞を提供(共催)

表彰式 11月11日(土) 12:30-13:00 予定

● 附属中高にて名称に「SOAR」を冠した2コース開設予定

附属中高は、令和6年度から新たに、SOARを冠した名称の「SOARグローバルサイエンスコース」と「SORA探究コース」の2つのコース制で募集します。

URL: [https://jhs.mukogawa-u.ac.jp/2024\\_change\\_mukojo](https://jhs.mukogawa-u.ac.jp/2024_change_mukojo)

S O A R



国内最大級ダイバーシティカンファレンス第28回「国際女性ビジネス会議」が開催され、SOARプログラムとしては、7月9日(日)第1部(オンライン)への参加費助成を行いました。参加した3名の学生の感想エッセイ(抜粋)を紹介します。

世界中で活躍する女性の方々からお話を聞かせて頂き、大学では得られないような刺激を沢山得られました。アメリカでは取締役のうち



建築学科 1年 堤祐子

少なくとも3人は女性にしなければならないという法律が作られた話を聞きました。日本ではそのような規定すら作られていないため、次世代の私達が取り組むべき問題だと強く感じました。他の参加者と交流する場では、私以外は全員が社会人で、企業で女性の役員登用を進めるために、会議に出席されている方もいました。そういった実際に変革にチャレンジされている姿を見て、私も自分から常識を変えていこうという勇気を持つことができました。

活躍する女性の姿を見ることで、私の将来の働く像が具体的に増えてきたように思います。ダイバーシティに参画している方々の話を聞いていると、みなさんの熱量が



日本語日本文学科 1年 篠原梓月

すごくて、話を聞いている間、ずっと動きたくてそわそわしてしまいました。ダイバーシティを信じている方々の話は新鮮で、「ダイバーシティに投資をするというのはコストではなくて、将来に向けての投資である」という言葉が印象に残っています。この国際女性ビジネス会議を通じてさまざまな方の考えに触れましたが、この言葉が根底にあると思います。インスピレーションを多大にいただくスピーチもあり、ダイバーシティはパワーがあると強く感じました。

今回の会議で印象的だったのは、耳の不自由な方々が中心に活躍するホワイトハンドコーラスのお話でした。手袋に光を灯し、音楽を手話で表現するユニークなスタイルのパフォーマンスで



英語文化学科 3年 松山由佳

です。このコーラスにはベネズエラの公害が原因で聴覚に障害を持つ人々が増えたという歴史があります。この感動的なパフォーマンスを通じて、私たちは聴覚に障害を持つ人々の視点や感情、そして音楽を通じた自己表現を理解することができました。手話で表現される音楽は視覚的にも美しく、光の軌跡を写真で共有することで、多くの人々と音楽に共感できることに魅了されました。また、ホワイトハンドコーラスのメンバーが手歌でリズムやメロディーを表現する姿からは、音楽の力が言葉や文化を超えて人々を結びつけることを感じました。



●「MUKOJO研究者マッチングカフェ」(異分野交流カフェ)

「ムコジョ研究者マッチングカフェ」を本学学校教育館多目的室で、対面にて開催いたしました。本取り組みは、学内の他領域の研究者と交流することで、新しい視点に気づいたり、総合的・複合的な研究にチャレンジしたりすることを目指す企画で、初めての試みとなります。学生・教職員、合わせて11名が参加しました。

それぞれの研究内容だけでなく、現在関心を持っている研究のタネを紹介し合いながら、和気あいあいとした雰囲気の中で、自分の研究に結び付けたり、新しい視点を加えたりしながら交流を深めることができました。時間が終わっても盛り上がるなど、共同研究に繋がる貴重な機会となりました。

(生涯活躍推進部門 吉井美奈子)



●統計学セミナー「基礎編」波多江 崇先生(中国学園大学 教授)

恒例となった波多江崇先生の統計学セミナー、今回は20名の方に参加いただきました。難しくとっつきにくい、必要だから統計解析ソフトを使っているけど理論には自信がなくてよくわからない、といった声を耳にする統計学。今回は、基礎編に戻って今さら聞けないようなことを解りやすく解説していただき、「なるほど」「間違ってた覚えていた」など、気づきの多い内容でした。母集団、標本、標準偏差などの用語についても、なぜ敷居が高いと感じてしまうのかという視点で、理解がより深まる解説でした。統計学を活用するスキルは、学生の研究活動のみならず、研究・教育機関である本学の教員・事務職員の業務にも資することが改めて解りました。今後、本学に属する全ての人のスキルアップを目指してシリーズ化していく予定です。

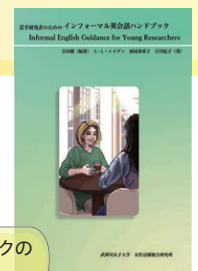
(生涯活躍推進部門 吉田都)



グローバル化推進部門では、従前より国際学会などにおける英語を使ったプレゼンテーション能力を促進するための教材開発を行なっています。特に、日本人が不得意とするところの原稿のないリアルタイムの英会話コミュニケーション力を1つの目標にしています。このたび、部門研究員の有志が、「若手研究者のためのインフォーマル英会話ハンドブック」と題した小冊子を共同執筆しました。この小冊子は、昨年度の文化祭で実施した「英語発音と口語文法のミニセミナー」や、昨年度末に簡易印刷された英会話教材からのフィードバックを受け、なるべく分かりやすく加筆修正されたものになります。

リアルタイムの英会話コミュニケーション力をつけることによって、学会発表を終えた後、参加者間で取り交わされる自由な情報交換の機会をもっと利用できるようになるかも知れません。若手研究者は国際的な共同研究のシーズになかなか出会えないなか、英語力を活かした積極的な行動を起こすことが大切だと考えられます。ハンドブックの随所には、エクササイズ方式の英会話事例も収めています。小冊子は女性活躍総合研究所にありますので、是非手に取ってご覧いただけますようお願いいたします。

(グローバル化推進部門 吉田徹)



ハンドブックの概要

- 第1章 異なる文化背景に由来する運用の違いを理解する
  - 1-1 異文化コミュニケーションへの理解
  - 1-2 慣習やジェスチャーの違い
- 第2章 日本語と英語の発音の違いを理解する
  - 2-1 正確な英語発音のためのメソッド
  - 2-2 子音の発音パターン
- 第3章 口語英語でよく使われる基本構造を理解する
  - 3-1 英語の語順
  - 3-2 英語を話すための基本構造
  - 3-3 基本構造のルール
  - 3-4 基本構造の応用ルール
- 第4章 口語英語で頻出するフレーズを出来るだけ理解する
  - 4-1 打ち解けた英会話を始めるための手法
  - 4-2 英会話を構築するための基本戦略
  - 4-3 自然な英会話を楽しむための手法
  - 4-4 口語英語でよく使用するフレーズとセンテンス

グローバル化推進部門では、英語ネイティブの先生による個別指導を、オンライン(Zoom)で受講できるオンデマンドチューターを開催しています。プレゼンテーションの練習や、英語論文の添削、海外出張に向けた英会話練習などで、ぜひご利用ください。

【講師】アンドリュー・イネス先生 本学文学部英語グローバル学科 非常勤講師

【対象者】本学大学院生、教職員

【開催日】毎月1~2回

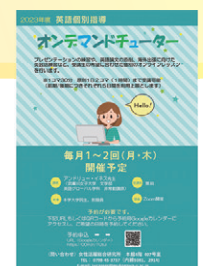
〈受講者の感想より〉

「シチュエーションに応じたフレーズや今必要な学習法を具体的に教えていただき、意欲向上につながりました。」



私がチューターです

スケジュール及び  
予約はこちらから



ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)事業における4つの研究支援経費のうち、以下のプログラム採択者が決定しました。

| 研究支援プログラム名              | 支援額  | 研究者(代表者)         | 研究課題名  |
|-------------------------|------|------------------|--|
| ダイバーシティ推進センター<br>女性研究者賞 | 20万円 | 三浦有花(健康・スポーツ科学部) | 女性の障害物跨ぎ越し歩行における障害物<br>接触の回避：先行脚と後続脚の挙上高への着目 |

### ●サポーター登録説明会 9月16日(土)9:30～12:00

2019年度採択の文部科学省 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業(牽引型、代表校:奈良女子大学)の大学の新たな託児支援のため、サポーター登録説明会を開催しました。卒業生22名が参加し、事業概要や支援内容の説明の後、附属保育園園長の登佐先生や副主任の実本先生による「保育の心」の講演を行いました。その後、サポーター登録手続きと面談を実施しましたが、面談では、母校に対する熱い思いや本事業に是非協力したいなどの温かい言葉をいただきました。最終的に21名の方が登録をされ、今後サポーター養成講座のオンディマンド受講や救急実習受講の後サポーター認定させていただく予定です。

(ダイバーシティ化推進部門 福尾恵介)

### ●「MUKOJO ミライ☆ラボ」

次世代女性人材育成部門では、女子中高生の皆さんの理系進路選択支援を応援する「ひょうご理系女子未来塾」の活動をしてきましたが、この度、名称を「MUKOJO ミライ☆ラボ」に変更しました。将来のキャリアを文理の選択という視点に限定することなく、自分の「好き」や「得意」をキャリアにつなげていくことをコンセプトに、将来のことを考えるラボを「ミライ☆ラボ」と名付けました。名称変更に伴い、ホームページもリニューアルしました。



### ●小学生を対象とした親子ワークショップを開催

8月8日(火)ららぽーと甲子園にて「色(いろ)が変わるふしぎなスライムを作ろう!」を開催しました。今回で2回目の開催となったスライム作りのワークショップには、午前中からたくさんの親子に参加いただき、学生と楽しくスライム作りを体験しました。

(次世代女性人材育成部門リーダー 長谷川裕紀)



### 研究所の 今後の予定



- ◆10月28日(土) 13:30～15:30 英語コミュニケーションセミナー
- ◆11月 1日(水) 15:00～「性の多様性理解」講演 合同教授会にて
- ◆11月11日(土) 13:30～15:00 卒業生座談会
- ◆11月29日(水) 性教育セミナー
- ◆2月 3日(土) 13:00～16:30 関西圏異分野交流会(神戸松蔭女子学院大学にて)
- ◆3月 2日(土) 国際女性デーMUKOJO フォーラム

学校法人武庫川学院 武庫川女子大学 〒663-8558 兵庫県西宮市池開町6-46 本館4階407号室

### 男女共同参画推進課

(令和5年4月～  
人事部  
男女共同参画推進課)

TEL:0798-45-3542

FAX:0798-45-3535

Mail:gsankaku@mukogawa-u.ac.jp

男女共同参画推進課 HP



### 女性活躍総合研究所

TEL:0798-45-3737

FAX:0798-45-3535

Mail:iwcareer@mukogawa-u.ac.jp

女性活躍総合研究所 HP

